

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		神山靖彦	所 属	理学部 数理科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートで、説明が丁寧で内容に興味を持てたと評価されるようにする。 ・幾何の講義で、ここで説明したことが私の研究内容にどう発展していくか概説する。 ・卒業研究の指導教員として、就職活動や教員・公務員試験対策などに積極的に取り組むよう指導する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・数学序論の授業評価アンケートで、「説明したことを黒板にほとんど書いてくれたので、板書や復習がしやすかった。」と書かれた。 ・幾何の授業評価アンケートで、「分かりやすい例を挙げることで理解しやすかった。重要な定理をしぼることで自主学習しやすかった。」と書かれた。 ・ゼミ生の研究授業参観のため糸満高校まで行った。別のゼミ生は教員採用試験(高校)に現役合格した。 	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得済みの科学研究費補助金を有効に活用した研究を行う。 ・論文を執筆し、国際誌へ投稿する。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費を共同研究者なしの研究代表者として持ち続けているのは21年目であるが、惰性になることなく有意義に執行した。 ・論文を国際誌に出版したところ、St. Petersburg InstituteのGaiane Panina教授から、興味深い論文だと連絡を受けた。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌から依頼されたレフェリーを行う。 ・理学部学生指導主任として、就職関係で学外の企業との連携を密にする。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌から依頼されたレフェリーを行った。 ・理学部学生指導主任として、就職情報会社であるマイナビやリクルートキャリアとたびたび面談やメール交換した。 	
管理 運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・副学部長として、学部運営に尽力する。 ・理学部学生指導主任として、種々の活動を行う。 ・2年次指導教員として、適切な生活指導・就学指導を行う。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・理学部学生指導主任として、全学委員会に出席したり体育祭や琉大祭で巡視を行った。理学部教授会で報告も行った。 ・学生支援委員会委員長として就職セミナー開催や広報誌発行を行った。 ・2年次指導教員として種々の指導を行った。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		前田高士	所 属		理学部 数理科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次微分積分学ST: 基礎的な事柄を確実に習得させる。 ・1年次基礎ゼミ: 授業内容の疑問点を解決する。 ・2年次代数: 脱落者を出さないようにする。 ・卒業研究: 卒業後の進路を踏まえたゼミを行う。 ・修士2年次: 余裕をもって修士論文を完成するように指導する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次微分積分学ST: 演習の時間を設けたのが好評だった。 ・1年次基礎ゼミ: 欠席の多い学生が1人いたのが残念。 ・2年次代数: 追試をしたので、脱落者が少なかった。 ・卒業研究: 4人とも毎回出席したのが良かった。 ・修士2年次: 修士論文作成に時間の余裕がなかった。
研究	0.35	べき零変換, ヤング図形の研究を継続し, 論文を投稿する。		0.35	11月, 論文を投稿した。
社会 貢献	0.10	8月の教員免許更新講習では,出席者の満足を得られるような講義をする。		0.10	受講者のアンケート結果から判断すると成功したと思う。
管理 運営	0.10	1年次指導教員の仕事を滞りなく行う。		0.10	1年次指導教員の仕事をを行った(成績不振学生, 転学部希望学生の指導, 1-3研修, 教職指導の引率など)。
進路 指導	0.05	4年ゼミ生及び大学院生の, 卒業後の進路に応じた進路指導を行う。		0.05	4年ゼミ生の教育実習を参観した(中学2件, 高校1件)。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		須藤 隆洋	所 属	理学部 数理科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	微分積分学、解析学序論、解析III、学部ゼミ、及び大学院ゼミの準備を行い、実行する。		0.45	微分積分学、解析学序論、解析III、学部ゼミ、及び大学院ゼミの準備を行い、各講義及びゼミを行った。	
研究	0.40	研究成果を論文にまとめ投稿する。		0.40	琉球大学理学部紀要に論文1編を投稿し、掲載された。Ryukyu Math. J.に論文1編を投稿し、掲載された。これら以外に、論文1編が投稿された。	
社会 貢献	0.10	アメリカ数学会のMath Reviewとヨーロッパ数学会のzbMathの論文評論者として貢献する。		0.10	Math Reviewの論文3編を評論した。Zb Mathの論文10編を評論した。	
管理 運営	0.05	理学部紀要編集委員、22大学委員、及び高大連携委員として貢献する。		0.05	理学部紀要委員及び理学部研究推進委員として貢献した。数理科学科の24大学委員として貢献した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		佃 修一	所 属	理学部 数理科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学生が自分の頭で考える習慣を身につけることが出来るようつとめる。 卒業研究のゼミ生3名中2名は教員志望のため、数学の力およびプレゼンテーションの能力を向上させることを主眼に指導したい。1名は民間企業への就職を希望しているのでそのサポートを行う。 また、修士の学生に対し修士論文作成に向けた指導を行う。		0.30	卒業研究のゼミ生中1名は民間企業への就職が決まった。また1名は教員採用試験に合格した。 修士論文の指導を行った。この学生も教員採用試験に合格した。	
研究	0.55	近年取り組んでいる組み合わせ論的代数位相幾何学に関する研究が進展しつつある。この研究をさらに推進する。 科研費に応募する。		0.50	組み合わせ論的代数位相幾何学に関する成果をいくつか得た。また、この分野に関する論文が出版された。 科研費に応募した。	
社会貢献	0.05	教員免許更新講習に協力する。		0.05	教員免許更新講習に協力した。	
管理運営	0.10	教育委員会等の委員として学部、学科運営に貢献する。		0.15	学部教育委員および全学科目企画委員として学部、学科運営に協力できたように思う。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		陳 春航	所 属	理学部 数理科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	共通科目「微分積分学Ⅰ、Ⅱ」、「統計学」、専門科目「基礎ゼミⅠ、Ⅱ」、「数理統計学Ⅰ、Ⅱ」の講義、「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」を通して4年次学生の指導、大学院専門科目「数理統計学」、「数理科学特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「数理科学講究Ⅰ、Ⅱ」、「数理科学特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「情報数学特別講義Ⅰ、Ⅱ」の講義。		0.40	計画通り実施した。	
研究	0.40	極値理論による津波や台風に関する研究、金融資産価格変動のメカニズムに関する統計的研究、講演、論文投稿		0.40	極値理論による津波、台風に関する研究成果を論文にまとめている段階である。	
社会 貢献	0.10	アクチュアリー資格取得のための指導、人材育成		0.10	主に数理統計学、卒業研究専門科目において、アクチュアリー資格取得のための指導を行った。	
管理 運営	0.05	3年次指導教員、教室委員インターンシップ、理学部委員学生支援、大学院留学生特別プログラム(理学系)運営委員会委員として貢献		0.05	3年次指導教員として、勉強や就職指導などを行った。また、学生支援委員として、就職セミナー、ニュースレター「ゆみみそーれ」編集などに携わった。	
	0.05	4年次学生、大学院生、特別プログラム留学生に対する就職指導		0.05	計画通り実施した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		木本 一史	所 属	理学部 数理科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	本年度は線形代数学演習、微分積分学STおよび代数学IVを担当する。線形代数学演習では、アクティブラーニングの一形態としてグループワークを試みる。微積分では事実のメカニズムの理解と実際の計算とのバランスが取りつつ実践的な内容とする。代数学は卒業研究でのテーマ選びの参考にもなるような題材を取り上げたい。		0.40	線形代数学演習ではグループワークを取り入れる試みをした。従前よりも出席率が上がり、演習時間中に暇を持て余す学生がほぼいなくなったのは良いと思うが、扱う問題数がかなり少なくなった。このあたりのバランスが今後の課題である。微積はほぼ従前通りで、ところどころで微調整を行いつつ進めた。代数学は楕円曲線を扱った。興味の広がりのきっかけとなれば幸いである。卒業研究や修士のゼミはおおむねほどよく出来たと思う。	
研究	0.40	非可換調和振動子、アルファ行列式およびそれらに関連するテーマについての研究をすすめる。またCREST暗号数理のメンバーでもあり、こちらの研究も引き続き行う。今年度は科研費を獲得できなかったため、次年度の獲得に向けて申請の準備を行う。		0.40	科研費は不採択であったので今年度も応募した。今年度は講究録の記事が2本と論文集に採択された論文1本が出版され、研究集会や学会での成果発表を3件行った。また共著論文を1本投稿中である。まずまずだと思う。	
社会 貢献	0.05	学科のウェブページの更新を通じて学科の活動状況をオープンにする。また日本数学会では関数解析学分科会委員として学会活動に貢献する。		0.05	ウェブページを適宜更新した。また関数解析学分科会委員としての仕事を行った。大きな問題はなかったと思う。	
管理 運営	0.15	担当する委員の仕事を責任を持って遂行する。		0.15	委員の業務が円滑に進むように努めたつもりであり、大きな問題はなかったと思う。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		林 正史	所 属	理学部 数理科学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	講義: 確率過程論I, 確率過程論II, 基礎ゼミ ゼミ: 4年次卒業研究、修士1年、修士2年(アクチュアリーコース)		0.40	確率過程論I, 確率過程論II, 基礎ゼミを担当した。また、4年次卒業研究、 修士1年、修士2年(アクチュアリーコース)のゼミを担当した。	
研究	0.30	確率解析および、保険数学の研究を行う		0.20	パラメトリクスの研究をさらに進めた。	
社会 貢献	0.10	理学部体験ツアー(オープンキャンパス(数理科学科))を担当をする		0.10	理学部体験ツアー(オープンキャンパス(数理科学科))を担当した。	
管理 運営	0.20	選挙管理委員、広報委員、冠婚葬祭委員		0.30	選挙管理委員、広報委員、冠婚葬祭委員を担当した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金子 譲一	所 属	理学部 数理科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の微分積分学STの講義は再履修者向けなので、内容を出るだけわかりやすく話すことを特に心がける。 ・卒業研究の指導教員として、学生が教員志望であることから、数学の内容の把握とともにプレゼンテーションの仕方についても注意して指導をおこなう。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・微分積分学STの講義は、今年度少し内容を絞って、例題をかなり多めに解いてみせるなどした。その結果内容の理解が以前より少し進み、問題解決力も高まったように考える。 ・卒業研究ではテキストにある問題を積極的に解いてもらうことを心がけた。またゼミにおける発表の仕方についても、論旨が明確になるように話すよう指導した。 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂中のKoorwinder多項式の論文を仕上げ、然るべき雑誌に投稿する。また北海道大の松本圭司教授との共同研究に一区切り付けて論文をまとめる。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・Koorwinder多項式の論文は内容を少し追加してほぼ完成し、細部のチェックなどを行っているところである。 ・松本教授との共同研究はその一部分が出版された。 	
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌のレフェリーを行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・レフェリーを完了した。 	
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長として学科の運営を適切に行う。 		0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長として概ね適切に学科運営が出来たと考える。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉浦 誠	所 属	理学部 数理科学学科	職 名	准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.70	担当する共通教育、学部および大学院の授業を適正に行い、公正に評価をする。 4年次の指導教員として適切な進路指導を行う。アクチュアリーコースを中心とした学部4年次の学生および博士前期課程の大学院生の指導を適切に行う。		0.75	担当した共通教育、学部および大学院の授業を適正に行い、公正に評価をした。4年次の指導教員を適正に行えた。アクチュアリーコースを中心とした学部3年次を含め学部4年次の学生および博士前期課程の大学院生の指導を適切に行った。		
研究	0.10	確率解析もしくは保険数理に関するに関する研究を行い、成果が出れば発表する。		0.10	アクチュアリー関連の数理の勉強を行ったが、成果は出せなかった。		
社会 貢献	0.10	教員免許更新講習などを行う。		0.10	教員免許更新講習など適正に行えた。		
管理 運営	0.10	担当する委員として適正に活動する。		0.05	担当する委員として適正に活動できており、今後も適正に行う予定です。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		橋本康史	所 属	理学部 数理科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	工学部1年生の微分積分学の講義と、理学部数理科学科1年生の基礎ゼミ、3年生以上の代数学Ⅲ・Ⅳ、4年生の卒業研究と大学院の授業を担当する。講義では、演習も行い実践的な計算力を身につけさせる。基礎ゼミでは、少人数の利点を生かした指導を行うことで、基礎的な学力を身につけさせるとともに、発表を行わせることで、プレゼン能力もやしなう。卒業研究では、代数学のテキストを基により専門的な数学を学ばせる。		0.35	微分積分学では演習時間を十分確保することで、実践的な計算力をやしなう。基礎ゼミでは、大人数の講義のみでは理解が難しい部分の理解の手助けができたと考える。卒業研究では、代数学と整数論に関するテキストの輪講を行い、より専門的な内容に取り組んだ。代数学の授業では初等整数論に関する講義を行い、応用的な内容にも一部踏み込むことができた。大学院の授業では学部では取り扱えなかったより専門的な内容の授業を行い、受講者の数学的な教養を深める一助になったと考える。	
研究	0.50	主に、双曲多様体上の素測地線分布とスペクトル分布に関する研究、および、公開鍵暗号方式の安全性評価に関する研究を行う。前者については、2つの分布の様子を跡公式を用いて比較することで相互作用的な研究の進展が期待できる。後者については、連立2次方程式を用いた暗号方式に関する安全性評価を行う。ともに、成果が得られ次第、学術誌への論文発表および研究集会での口頭発表を積極的に行う。		0.50	前者については、非コンパクト数論的な多様体に関するlength spectrumの具体的な表示を得ることができた。この成果については研究集会で報告済みであり、国際学術誌に投稿する予定である。後者については、HMFEVという2017年に新しく提案された署名方式の解読に成功した。この成果については、研究集会で公表済みであり、国際学術誌に「条件付き採録」と評価され、修正版の審査中である。	
社会 貢献	0.00			0.00		
管理 運営	0.15	前年度に引き続き、理学部の教務委員を務め、時間割編成などに携わる。		0.15	教務委員として、時間割編成などに携わった。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		眞野智行	所 属	理学部 数理科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	共通教育科目の微分積分、専門科目の解析学、4年生向けの卒業研究また大学院の研究指導などを担当する。初学年に対しては高校数学から大学数学への橋渡しがうまくいくように留意しつつ基礎学力の定着を目指し、高学年に対しては基礎学力の実践能力および専門知識を身につけることを目標とする。		0.30	共通教育科目の講義については、順調に進んだので問題演習の時間を比較的多く取ることができ、学習内容の定着に役立ったように思う。卒業研究等では、内容の進展に伴いいくつかの問題を提示し解答させるということを行ったので、自律的な学習能力を身に付けるのに役立ったと考える。	
研究	0.30	科研費採択課題「平坦構造の一般化とモノドロミ保存変形」について中心に研究を行う。いくつかの解決すべき問題について研究を推進させたい。また並行して研究結果について論文執筆や研究会などでの発表を積極的に行いたい。		0.30	平坦構造のプレポテンシャルについて分岐点集合の周りでの解析的表示や、複素鏡映群の多重鏡映面配置の自由性の問題の解決などの進展があった。国内外の研究集会で発表を行い、論文が国際誌に掲載された。	
社会 貢献	0.10	教員免許状更新講習の提供を行う予定である。		0.10	那覇工業高等学校で開催された「高校数学を考える会」に参加した。教員免許更新講習を実施した。	
管理 運営	0.30	学士教育プログラム推進委員に当たっている。教育の改善やその評価などに関わる内容を含むので、支障のないように職務を遂行したい。		0.30	学士教育プログラム推進委員の仕事を特に問題なく行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		伊藤 雅彦	所 属	理学部 数理科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.50	工学部、建築学コースの共通科目「微分積分学ST」では理論的なことよりも、実際に具体的な計算ができるようになることを目標とする。理学部、数理科学科の1年次「基礎ゼミ」では、逆に理論的な推論にこだわり、初学者の興味関心が数学の公式に潜む背景にも向くようになることを目標とする。理学部、数理科学科の3、4年次「解析学特論」では主にガンマ関数の性質を理解することを目標とする。		0.50	「微分積分学ST」では演習の時間を設けて、学生に具体的に問題を解いてもらって、採点返却を行った。アンケートで好評だったので、次回も演習を続けたい。「基礎ゼミ」では、学生一人一人に黒板で解答を発表してもらい、その際詳しい解説を行った。「解析学特論」では、ガンマ関数の性質、特にポーア・モレルップの定理の使い方を紹介した。	
研究	0.40	楢円セルバーグ積分の性質(和公式、変換公式など)を、楢円ラグランジュ補間関数を使って、差分方程式の解の性質として理解する。		0.40	研究成果を論文にまとめて、1月に投稿した。	
社会 貢献	0.00			0.00		
管理 運営	0.10	代議員を担当する。代議会に代議員として出席し、検討課題を学科に伝達し、学科の意見の集約を行う。		0.10	代議会に代議員として出席し、学科の意見を伝えた。理学部教育委員と理学部非常勤講師採用計画の意見交換を行ない、代議会にて了承した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		